

# 第2回 こまき<sup>けんてい</sup>検定 問題<sup>もんだいようし</sup>用紙

平成30年2月4日(日)

ちゅうい  
注 意すること

- ① 検定時間は30分です。(10時00分～10時30分)
- ② 「はじめ」の合図があるまで、問題用紙を開かないようにしてください。
- ③ 途<sup>とちゅう</sup>中<sup>ちゅう</sup>で会場から出ることはできません。トイレや体<sup>たいちよう</sup>調<sup>じょう</sup>が悪<sup>わる</sup>い時は、手をあげてください。
- ④ 机<sup>つくえ</sup>の上には、筆記用具のみを準<sup>じゅん</sup>備<sup>び</sup>してください。
- ⑤ 問題に関する質<sup>しつもん</sup>問<sup>もん</sup>は、字が読みづらい以外はできません。
- ⑥ 答えはすべて解<sup>かい</sup>答<sup>とう</sup>用紙に記号で記入をしてください。
- ⑦ 問題は1ページから5ページまであります。

ごうかく ひょうしょう  
合 格 ・ 表 彰 について

- ① 21問以上の正<sup>せい</sup>解<sup>かい</sup>で合<sup>ごう</sup>格<sup>かく</sup>になります。
- ② 満点賞のみ会場で氏名を発表し表<sup>ひょうしょう</sup>彰<sup>しょう</sup>します。その他の合<sup>ごう</sup>格<sup>かく</sup>・不<sup>ふ</sup>合<sup>ごう</sup>格<sup>かく</sup>については、終了後に受付でもらう封筒<sup>ふうとう</sup>の中を  
か<sup>か</sup>く<sup>く</sup>に<sup>にん</sup>  
確<sup>かく</sup>認<sup>にん</sup>してください。

## 第2回 こまき検定 問題

次の問題の答えとして、正しいと思うものを選び、解答用紙に記号で書きま  
しょう。

1 国道155号の上末交差点付近に、上末城の跡があります。上末城を築いた武  
将の子孫は小牧原新田に移り、入鹿六人衆の1人として、入鹿池を造るのに  
力をつくしました。この人物はだれでしょう。

- ア 鈴木久兵衛      イ 落合新八郎      ウ 江崎善左衛門  
エ 丹羽又兵衛

2 「北里」という地名の「北」は、元は西春日井郡の北に位置する村ということ  
でつけられたといわれています。では、「里」の由来は何でしょう。

- ア さといも      イ さつまいも      ウ じゃがいも      エ タロイモ

3 小木古墳群の中で一番大きい宇都宮神社古墳は、どんな形でしょう。

- ア 前方後方(円)墳      イ 方墳      ウ 円墳      エ 八角墳

4 久保一色の庚申寺には、狛犬ではなく、ある動物の像が本堂前に置かれてい  
ます。この動物は何でしょう。

- ア 鳥      イ 羊      ウ 猿      エ 牛

5 味岡地区には小松寺という寺があります。この名前の由来となった小松殿と呼  
ばれた人は、どの一族の人でしょう。

- ア 北条氏      イ 源氏      ウ 藤原氏      エ 平氏

6 「小針」という地名は、「尾張」の語源になっています。「はり」(針・張)  
が表す意味は何でしょう。

- ア 開墾したところ      イ 布を生産したところ      ウ 針を生産したところ  
エ 梁(家の材料)を生産したところ

7 明治時代から昭和にかけて、久保一色の陶芸家である仙田市兵衛・佐太郎親子が、農業のかたわら作った焼き物は何と呼ばれているでしょう。

ア 花器    イ 壺    ウ 茶器    エ 土雛

8 小牧山の南に城下町をつくったのはだれでしょう。

ア 織田信長    イ 徳川家康    ウ 豊臣秀吉    エ 石田三成

9 篠岡地区の県道荒井大草線の大山川にかかる橋の名前は「記念橋」といいます。この名前はあるできごとを記念して名付けられました。そのできごとは何でしょう。 ※即位・・・天皇になること

ア 日清戦争の勝利    イ 日露戦争の勝利    ウ 大正天皇の即位  
エ 昭和天皇の即位

10 大正9年(1920)には岩倉・小牧間に鉄道が開通し、小木駅がつくられました。その線路も、昭和39年(1964)にはなくなり、今はバスでつながっています。この鉄道を作った会社は何というでしょう。

ア 近畿日本鉄道    イ 名古屋電気鉄道    ウ 国鉄    エ JR東海

11 明治時代に、篠岡地区ではのぼり窯で焼き物が作られていました。その焼き物は何と呼ばれていたでしょう。

ア 野口焼    イ 陶焼    ウ 大草焼    エ 大山焼

12 池之内と本庄の境あたりを流れる大山川に、陣配橋という橋がかけられています。陣配というのはこの付近の地名で、ある武将が小牧・長久手の戦いのときに陣をおいたことから、そう名付けられたと言われています。この武将はだれでしょう。

ア 羽柴秀吉    イ 柴田勝家    ウ 斎藤道三    エ 徳川家康

13 小木四丁目にある世尊寺は、ある寺の跡であると伝えられています。織田信長の家老をとむらうために建てられた、この寺の名前は何でしょう。

ア 永平寺    イ 政秀寺    ウ 東大寺    エ 恵林寺

14 小牧山にある小牧市歴史館は、<sup>しろ</sup>城の形をしています。この形のモデルとなった建物は何でしょう。

- ア <sup>かしはらじんぐうぶん かでん</sup> 檀原神宮文華殿      イ <sup>ろくおんじしやりでん</sup> 鹿苑寺舍利殿      ウ <sup>なごやじようほんまるごてん</sup> 名古屋城本丸御殿  
エ <sup>にしほんがんにじ ひうんかく</sup> 西本願寺飛雲閣

15 <sup>うわかいどう きそかいどう</sup>上街道（木曾街道）の<sup>しゆく しものちょう</sup>小牧宿の下之町にある「<sup>ぼうか</sup>岸田家」などには、防火の神様が屋根にまつられたところがあります。これを何というでしょう。

- ア <sup>もりがみ</sup> 守神      イ <sup>やどがみ</sup> 宿神      ウ <sup>やねがみ</sup> 屋根神      エ <sup>いえがみ</sup> 家神

16 <sup>いわさき</sup>岩崎山にある市指定の<sup>ゆうけいぶんかざい</sup>有形文化財である<sup>きりしたんとうろう</sup>切支丹灯笼には、<sup>じゅうじか</sup>十字架の形に見える部分があります。それはどこでしょう。

- ア <sup>ひぶくろ</sup> 火袋      イ <sup>かさ</sup> かさ      ウ <sup>はしら</sup> 柱      エ <sup>はしら</sup> 火袋の穴

17 <sup>ふじしま</sup>藤島地区にある<sup>けんりんじ</sup>賢林寺の<sup>ほんぞん</sup>本尊は県の<sup>ゆうけいぶんかざい</sup>有形文化財に指定されています。その本尊は何でしょう。

- ア <sup>めんかんのんぼさつ</sup> 十一面観音菩薩      イ <sup>たんじようしやかぶつ</sup> 誕生釈迦仏      ウ <sup>せんじゆかんのんぼさつ</sup> 千手観音菩薩  
エ <sup>しやかによらい</sup> 釈迦如来

18 「<sup>たがた</sup>野も山も <sup>よ</sup>みなほほえむや <sup>れいたいさい</sup>田縣祭」と詠まれた<sup>れいたいさい</sup>田縣神社の例大祭は国の内外で有名な祭で、毎年3月15日に行われます。この祭をなんと言うでしょう。

- ア <sup>あきまつり</sup> 秋祭      イ <sup>ふしまつり</sup> 節分祭      ウ <sup>ほうねんまつり</sup> 豊年祭      エ <sup>はだかまつり</sup> はだか祭

19 大正4年(1915)に<sup>とやま</sup>北外山にある<sup>とやま</sup>外山神社の<sup>せいどうせい</sup>東側で<sup>さいき</sup>出土した青銅製の祭器は何でしょう。

- ア <sup>どうきよう</sup> 銅鏡      イ <sup>どうほこ</sup> 銅矛      ウ <sup>どうたて</sup> 銅楯      エ <sup>どうたく</sup> 銅鐸

- 20 昭和52年(1977)の尾張三十三所<sup>おわり</sup>観音<sup>かんのん</sup>霊場<sup>れいじょう</sup>案内図では、小松寺<sup>こまつじ</sup>は、尾張三十三所<sup>ふだしょ</sup>観音の札所<sup>ふく</sup>となっています。尾張三十三所<sup>おさ</sup>観音霊場案内図で札所<sup>ばい</sup>となっている小牧市内の寺院は、小松寺<sup>おさ</sup>を含めて何カ所あるでしょう。
- ※札所・・参拝のしるしとして、札を納めたり受け取ったりする所。

ア 3カ所      イ 4カ所      ウ 5カ所      エ 6カ所

- 21 小牧市小牧の戒蔵院<sup>かいぞう</sup>にある木造<sup>もくぞう</sup>十一面<sup>かんのん</sup>観音<sup>ぼさつりゅうぞう</sup>菩薩立像<sup>ぞう</sup>は、古くから人々の信仰<sup>しんこう</sup>を集めてきました。親しみのある慈顔<sup>じがん</sup>のこの像<sup>ぞう</sup>は、何時代につくられたと言われているでしょう。
- ※慈顔・・親が子をかわいがり大事にするような愛情<sup>じょう</sup>に満ちた優しい顔つき。

ア 室町時代<sup>むろまち</sup>      イ 江戸時代      ウ 鎌倉時代<sup>かまくら</sup>      エ 安土桃山時代

- 22 多気中町の十二柱<sup>じゅうにばしら</sup>神社にあるシノキの樹齢<sup>じゅれい</sup>は約何年ぐらいでしょう。

ア 100年以上      イ 200年以上      ウ 300年以上      エ 400年以上

- 23 『小牧町史』をはじめ、『北里村史』『東春日井郡誌』<sup>かすがいぐんし</sup>などを書き、郷土歴史<sup>きょうど</sup>家として小牧の歴史を詳しく調べた地元出身の人はだれでしょう。

ア 波多野 鼎<sup>はたのかなえ</sup>      イ 津田 応助<sup>つだおうすけ</sup>      ウ 神戸 真<sup>かんべ しん</sup>      エ 船橋 龍庵<sup>ふなはしりゅうあん</sup>

- 24 三ツ瀨にある正眼寺<sup>しょうげんじ</sup>の銅造<sup>どうぞう</sup>誕生<sup>たんじょう</sup>釈迦<sup>しゃ</sup>仏立像<sup>ぶつりゅうぞう</sup>は、7世紀中頃の製作<sup>なかがろ</sup>と見られています。昭和63年(1988)に国の重要文化財<sup>せいさく</sup>に指定され、現在は奈良国立博物館<sup>げんざい</sup>で展示公開<sup>なら</sup>されています。この像<sup>ぞう</sup>の高さはどのぐらいでしょう。

ア 8.2cm      イ 28.2cm      ウ 58.2cm      エ 78.2cm

- 25 毎年10月第2日曜日に大草の大久佐八幡宮<sup>おおくさはちまんぐう</sup>の祭礼<sup>ほうのう</sup>で奉納<sup>ほう</sup>される「大草棒の手」<sup>ぼう</sup>には、多くの技<sup>わざ</sup>があります。この「大草棒の手」のもととなった神影流<sup>しんかげりゅう</sup>を始めた人はだれでしょう。

ア 源 義経<sup>みなものよしつね</sup>      イ 宮本 武蔵<sup>みやもとむさし</sup>      ウ 沖田 総司<sup>おきたそうし</sup>      エ 伊庭 軍兵衛<sup>いばぐんべえ</sup>

26 慶長<sup>けいちょう</sup> 14年(1609)、徳川家康<sup>とくがわいえやす</sup>が城<sup>しろ</sup>を築<sup>きず</sup>くよう命令したため、石垣<sup>いしがき</sup>用の大きな石が大量に必要となり、岩崎山<sup>いわさき</sup>からもたくさんの石が切り出されました。この城は何という城でしょう。

ア 小牧山城    イ 江戸城    ウ 岐阜城    エ 名古屋城

27 味岡<sup>あじおか</sup> 駅の西側<sup>しんこつつ</sup>、新木津<sup>いとな</sup>用水のとなりにあった清流亭<sup>てい</sup>は、江戸<sup>えど</sup>時代には上<sup>うわかい</sup> 街道沿いにあり、茶店<sup>がし</sup>を営<sup>い</sup>んでいました。そこで名物として行き交う人々に喜ばれていたという茶菓子は何でしょう。

ア みたらしだんご    イ せんべい    ウ まんじゅう    エ ういろう

28 小牧山<sup>えど</sup>は、江戸時代には尾張<sup>おわり</sup> 徳川家<sup>とくがわ</sup>が所有しており、徳川家康<sup>いえやす</sup>ゆかりの地として一般<sup>いっばん</sup>の人々の立ち入りを禁止<sup>きんし</sup>していましたが、明治時代になると愛知県<sup>いっばん</sup>の所有となり、県立公園として一般<sup>いっばん</sup>に公開されました。その後、明治21年(1888)に貴賓館<sup>きひん</sup>としての機能<sup>きのう</sup>をもった建物<sup>たてももの</sup>が山頂<sup>さんちょう</sup>付近に建設<sup>けんせつ</sup>されましたが、この建物を何というでしょう。  
※貴賓館・・名譽・地位のある客人を招く建物。

ア 創垂館<sup>そうすいかん</sup>    イ 御所<sup>ごしよ</sup>    ウ 鹿鳴館<sup>ろくめいかん</sup>    エ 揚輝荘<sup>ようきそう</sup>

29 大草にある福巖寺<sup>ふくごんじ</sup>には、山門の前にめずらしい宝篋印塔<sup>ほうきょういんとう</sup>があります。この宝篋印塔は、何でできているでしょう。  
※宝篋印塔・・方形<sup>とうしんじょう</sup>の塔身上<sup>やね</sup>に段形の屋根をのせ、その四隅<sup>よすみ</sup>に突起した飾り<sup>とつき</sup>をつけた塔<sup>かざ</sup>。

ア 木    イ 陶器<sup>とうき</sup>    ウ 石    エ 金属<sup>きんぞく</sup>

30 昭和57年(1982)9月に小牧市から初めて訪問<sup>ほうもん</sup>して以来、毎年、夏休み中に市内の児童が学習交流で訪問<sup>ほうもん</sup>しているのはどこでしょう。

ア 北海道八雲    イ 秋田県男鹿<sup>あきたけんおが</sup>    ウ 熊本県阿蘇<sup>くまもとけんあそ</sup>    エ アメリカ アセス

## 出題に関わる参考文献

『小牧市史』

『小牧の文化財』『小牧叢書』

『小牧市文化財図録』『小牧の文化財散歩』

『小牧の寺院』『小牧の神社』

『味岡之庄の歴史』『北里教育百年の歩み』

『小牧の文化財地図 訪ね歩きマップ 味岡地区、篠岡地区、小牧地区』

『社会科副読本 こまき』（小学校）『社会科副読本 小牧』（中学校）

『篠岡百話』

『北里仏教会・寺院のあゆみ』

『J A尾張中央 ふれあい』

これで第2回こまき検定の問題は終わりコマ。  
しっかり見直すコマ。

- ☆ 30問しっかり最後までがんばったコマか。
- ☆ 解答用紙には記号で書いてあるコマか。
- ☆ 名前も忘れずに書いてあるコマか。

これからも小牧市の歴史に興味をもってほしいコマ。

**どすこまき！！**



第2回 乙まき検定 かいとうようし 解答用紙

じゅけんばんごう  
受検番号( )

名前

---

---

1		2		3		4		5	
6		7		8		9		10	
11		12		13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	
26		27		28		29		30	

